

The Significance of Running a Lab in the U.S.: Metabolic Contributions to Hematopoietic Homeostasis and Hematological Disease Pathogenesis



演者 **伊藤 圭介先生**

アルバート・アインシュタイン医科大学 教授

日時：2025年 **10**月 **1**日（水）

17:30~18:30 本館西棟ラウンジ

慶應義塾大学医学部を卒業後、渡米までの約6年半、血液腫瘍内科医として直接の診療に携わりつつ、研究にも取り組んできました。2012年には Albert Einstein College of Medicine にて研究室を設立し、2023年に同大学の教授（Cell Biology/Stem Cell Institute, Medicine and Oncology, Tenured）へと昇進しました。研究室のメンバーと共に、血液・幹細胞研究の発展に日々尽力しています。私達の研究の大きな核の一つは、多様な代謝経路が造血幹細胞の運命決定にどのように影響するのかという問いです。Ito lab では、健全な造血幹細胞の維持機構と、悪性化した造血幹細胞における異変の解明に全力を注いでいます。本講演では、ミトコンドリア代謝が幹細胞の運命決定へどのように関与してきたかを、これまでの進展と最新の知見とともにご紹介します。研究内容に加え、私のキャリア、特に海外で研究室を運営してきた経緯にも焦点を当てます。海外の研究環境の魅力や、日本を離れて基礎研究を行う意義、そしてその経験がPhysician-Scientistとしての視座をどう広げてきたかもお伝えしたいと考えています。

代表論文

1. *HemaSphere*. 9:e70140, 2025.
2. *Cell Stem Cell*. 31(3):359-377.e10, 2024.
3. *EMBO Rep*. 23(5):e54262, 2022.
4. *Cell Report*. 28(10):2480-2490.e4, 2019.
5. *Science*. 354:1156-1160, 2016.
6. *Nat Med*. 18(9):1350-8, 2012.

略歴

2000年 慶應義塾大学医学部 卒業
2000年 慶應義塾大学病院 内科研修医
2000年- 2004年 慶應義塾大学大学院 博士課程
2002年 慶應義塾大学病院 血液内科 助手
2004年-2006年 発生・分化生物学教室 特別研究助手 兼任
2006年 メモリアル・スローンケタリング癌センター 博士研究員
2007年 ベス イスラエル・ディーコネス医療センター 博士研究員
2008年 ハーバード大学 医学部 内科学 講師
2012年 アルバート・アインシュタイン医科大学 医学部 専任講師
2017年 アルバート・アインシュタイン医科大学 医学部 准教授
2023年 アルバート・アインシュタイン医科大学 医学部 教授

幹細胞センター 学術ディレクター（2012年-現在）、単細胞遺伝学センター長（2014年-現在）、及びニューヨーク KUH (Kidney, Urology and Hematology) トレーニングプログラム 執行委員会委員・ネットワーク共同リーダー（2022年-現在）兼任 熊本大学 客員教授（2020年-現在） 兼任

共催：ウェルビーイングプロジェクト